



本朝名公墨寶卷之下

目錄

八幡山惺之翁



雄德山松花堂惺翁

花下忘歸因
美系樽前勳
醉是喜風

いふはたはた

いふはたはた

神かちかち

のけいけい

あま

位細沙翁

湖落晴

飛強峰

いふはたはた

心之動也

月之明也

花之紅也

鳥之鳴也

如也

知也

今宵

在

氣名子

子孝如親也

心成於習

此

如

如

朝踏落飛相

伴出暮看隨飛

鳥一時來

あく 羅ちふ 本此

たせむ

心かきて

なにかれぬ

静のうらふちける

初筆

背 癖 物

福 途

砂 粒 宿 物

香 軍 箱

かよ

ふりて

花の姿

ふりて

り

幾

うき

袂に

あ

ね

さし

し

孫河交竟

多山曲

俊是者夫

在天下

ちちんあは

ふちんあは

あはあは

あはあは

あはあは

枕必雨洞

新秋地

桐多風涼

あはあは

輝いち〜く

あ〜あ〜あ

さの子おれ

あ〜あ〜あ

夜す〜あ

風流昨夜

輝いち〜く

あ〜あ〜あ

あ〜あ〜あ

三川と城費

かゝる心あり

かゝる

天の乳

く

かゝる

三峰岸

雪花初

白

一夜中

子

霜美如畫

西本無心

祿之

習之

嘉之

あつ

眼之

舞一日高見

飲酒

舞之

雲々

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

晴々

独一門

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

わがやうに

まじりておぼし

えいじ

かきかへ

あは

かきかへ

若使業部

道徳

徳心業

不心之

晨明のうら

こころしき

若

こころ

うらみ

こころ

罪類曉興

女形老

孝源

心寒

あはれむ此
むらぬま
くつね
たすのけ
かたし

ニ
心人

ねむ

之
角

管弦

ふにきふれ

かりや

多秋の月

雲ふれ

あひや

向晚篇以

生白露

終夜床底

見青と

夫亦
~~~~~  
~~~~~

發
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



巧たねのたねのたね

のたねのたねのたね

のたねのたねのたね

由ののたねのたね

位ののたねのたね

長生殿

意ののたねのたね

不ののたねのたね

前ののたねのたね



よるのよる

こはるのよる

あめりか

きんぎょ

うさぎ

山市晴嵐

一竿酒旆斜陽裏

数篋人家煙曉中



山路醉眠

歸去晚

太平五日

不喜風

あしひ。あしひあしひ

あしひあしひ

あしひあしひ

あしひあしひあしひ

あしひあしひあしひ



遠浦歸帆

鷺島青山一抹秋

浪平浪浪橋下流

歸橋漸入

蕭瑟花去

及在夕陽

江上頭



西屯子

浪子

法者色如斜

之於

漁村夕照

為著沙汀成

稿

江南江北



呼聲貫酒

大泉源

卦表西風

蘇一穂巻

なみのうきをいふは  
此

泣く泣く  
此

よけくき  
此

のちよ



遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮

殷々鐘聲訢晚風

此去上方

猶遠近

爲言只在

此山中



くきくふきき

きき

かかのかかにかか

かか

かかかかかか

かかかか

かかかか

かか

かかかか



道正法作

御内書

籍向神内

利奈内

あきねあきね

のこりしりしり

あき

あきあき

あきあきあきあき



洞避秋月

西風剪剪出蒼苔

三書如

芳頰煇波浴桂花

漁舟不知

羈客恨

直吹寒秋

白雲飛







孤燈遙念

孤筆盡

紙向竹枝

添淚痕

石中よ

たぬし

よあ

あ

新流



江天暮雪

雪後江天暮雪

扁舟一葉小如舟  
如舟

前湾伊苑

西岸樓

前湾伊苑

西岸樓



あゝの繁みりれふ

おもひふゝ

遠

ふもほのまは

ゆみりて

古人學書者未有不從門入蘓公終為  
非家珍實知蘓公語病如彼鍾繇受章  
仲將羲之學衛夫人者有故子名公墨  
寶者何 本朝諸名公之墨刻也  
本邦自古未見有勤珉刻木之帖是非  
乏其人而好事者鮮矣一日或人以此  
事求我予假借所知家藏極究目力臨  
模鑄刻者若干人若干帖或行草或假



名惟急於成帙有不得廣蒐博采之遺  
憾然墨寶之嗜好淳化之遺意也於是  
可見龍飛虎跳風雲浮動之姿縱雖無  
神采望其面目者也若臨池者步其蹊  
逕知其端倪者庶幾一助云爾

正保二年仲冬日

洛陽板本屋  
叔田勳兵衛尉



